プロジェクト名	島根地域資源イノベーション研究：産業化と交流促進による地域価値創出
代　表　者	生物資源科学部　教授　小林伸雄
達成に資する SDGs 目標	SDGs 3. すべての人に健康と福祉を SDGs 8. 働きがいも経済成長も SDGs 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう SDGs 15. 陸の豊かさを守ろう
プロジェクトの意義、成果及び波及効果	本研究プロジェクトは、島根県の豊かな自然環境と地域農業や島根大学が開発してきた地域生物遺伝資源を、保護と活用の両立のもとで研究対象とするものである。これは **SDGs「15. 陸の豊かさも守ろう」**に合致し、地域固有の生物資源を持続的に保全しながら、その価値を科学的に明らかにする取り組みである。 さらに、本プロジェクトでは、地域農業および食品産業に応用可能な「新品種育成：ツツジ、ダイコン、ナバナ類」「食品機能性成分のデータ集積」「機能特性を活用した農業生産提案」に加え、地域植物から採取した在来酵母の分離・評価と、ビール醸造やパン製造への応用研究を進める。また、伝統的な染色・生薬原料として利用されてきたムラサキ（紫草）の栽培技術の確立と地域産業への活用可能性の検討も行う。これらの取り組みにより、地域資源を活かした新たな食品・工芸・健康関連産業の創出を促進し、地域産業の活性化に寄与する。これは **SDGs「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」**に対応し、地域産業の競争力向上と新たな価値創出に資するものである。 島根県では高齢化や人口減少に伴い、農業の担い手不足や地域農産業の衰退が深刻化している。地域特産物や地域由来微生物、伝統作物を活用した農産業振興は、地域住民の健康増進、地域福祉の向上、働きがいの創出につながり、**SDGs「3. すべての人に健康と福祉を」**および**「8. 働きがいも経済成長も」**の達成にも資する。 本プロジェクトは、地域資源の科学的価値を明確化し、産業化・普及へとつなげることで、地域社会全体に波及効果をもたらすことが期待される。 具体的な研究対象植物・資源を以下に示す。 ○ツツジ類（島大オリジナル品種群），○出雲おろち大根（島大オリジナル品種群）、○ナバナ（島大オリジナル品種群），○香草類（ホーリーバジル等），○トウテイラン（島根県隠岐産遺伝資源），○ムラサキ（伝統的染料・生薬） ○ローカル酵母（ビール/パン酵母，島大オリジナル系統）

実施体制	担当部局名・職名・氏名	役割
	生物資源科学部・教授・小林伸雄	品種改良・植物材料育成
	生物資源科学部・特任教授・児玉基一朗	ローカル酵母の単離と活用
	生物資源科学部・准教授・中務 明	植物色素分析と遺伝子解析
	生物資源科学部・准教授・池浦博美	香気成分・植物機能性成分分析
	生物資源科学部・准教授・久保満佐子	安定生産技術開発
	生物資源科学部・助教・加古哲也	植物生産技術・加工品開発